講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第51回北九州子どものこころ懇話会（第564回合同例会）
日時：2020年11月19日（木）19:30～21:00
場所：毎日西部会館
演題：「こどもの心の外来での面接法」
演者：医療法人翠星会 松田病院 理事長・院長 松田 文雄 先生

第565回北九州地区小児科医会例会
日時：2020年12月17日（木）19:15～20:30
場所：ホテルクラウンパレス小倉　3Fダイアモンドホール
演題：「過去に例を見ない薬剤、前例のない感染症が
人心に及ぼす影響：適正な評価と判断の重要性 」
演者：佐賀大学医学部　国際医療学講座
臨床感染症学分野　教授
佐賀大学附属病院　感染制御部 部長　青木 洋介 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

当日は現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。
Webでの参加をご希望の先生は、
j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。
後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス
日時：11月9日（月）19：00～
場所：産業医科大学大学2号館2208教室
演題：O脚、X脚を契機に診断されるビタミンD欠乏性くる病
ーリスク因子の検討ー
演者：産業医科大学小児科　島本 太郎先生、桑村 真美先生
川越 倫子先生、山本 幸代先生

産業医科大学小児科セミナー
日時：11月26日（木）18：00～
場所：産業医科大学大学2号館2208教室
演題1：小児呼吸器検体における細菌叢解析
ークローンライブラリー法と次世代シークエンス解析の比較ー
演者：産業医科大学小児科　波呂 薫 先生
演題2：社会人大学院生活、国際学会発表の経験
演者：産業医科大学小児科　田中 健太郎先生

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス
日時：12月14日（月）19：00～
場所：産業医科大学大学2号館2208教室
演題：国内留学報告：一年間の国内留学を終えて
（九州大学小児科　血液・腫瘍）
演者：産業医科大学小児科　浅井 完先生

※12月の産業医科大学小児科セミナーはお休みです。

その他講演会などのご案内

第 431回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)
日時：2020年11月26日（木）19:00～
場所：WEBのため、事前申し込み
演題１：「当センターにおける、新型コロナウイルス
院内感染対策」
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 友納 優子 先生
演題２：「療育センターにおける保護者支援
~はじめてコースについて~」
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 鈴木 聖子
<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

講演会
日時：2020年11月20日（金）19:00～
場所：ウェルとばた大ホール
演題：「子どもの貧困と健康格差
～周りができることは何か～」
演者：北里大学医学部公衆衛生学　講師　可知 悠子 先生

令和 2 年度ペリネイタルビジット研修会
日時：2020年12月21日（月）19:00～
場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」
演題：「周産期メンタルヘルスケアの取り組みと母子の
多様な特性を踏まえた対応について」
演者：九州大学病院子どものこころの診療部
特任准教授 山下 洋 先生

保険診療メモ（202010）

算定でしばしば問題となる項目について

今月は保険者からしばしば再審査を求められる項目について取り上げました。過去に何回も取り上げられた内容ですが、再度ご確認ください。

Ⅰ）基本診療料ほか

〇初診料の算定について

　小児科では、他科とは異なり同月に2回初診料を算定することも認めていますが、前病が治癒・中止になっていない状態での初診料算定はできません。同系統の急性疾病では、前病の治癒後7日以上の間隔があれば初診料算定は認められます。レセプトは縦覧審査で前月末と今月初めの診療間隔も審査されます。月が替わっても前月病名に転帰の記載（治癒・中止）が無ければ継続していると判断されます。詳細については本年１月（丹々会は2月）の保険診療メモを再度ご覧ください。

〇「疑い病名」について

　「疑い病名」は検査等を行って解決した場合は、「確定病名」または「中止」にしてください。疑い病名のままでの検査の繰り返しは査定の対象となります。「疑い病名」では投薬などの治療は認められません。なお急性疾患病名（脱水症など）で点滴などを繰り返している場合も、古い日付のままでは査定の対象となります。

〇症状病名

　心雑音、血尿、頭痛など所見や症状を病名にして検査することには多くの疑義が寄せられます。有病・無病の簡単な検査は算定できることもありますが、鑑別に用いた疾患名（標準病名）を具体的に記載するようにお願いいたします。所見や症状名による傷病名では治療できないことが多く（前述の例では頭痛に対する鎮痛剤くらい）、投与する薬剤の添付文書にある傷病名の記載が必要です。

Ⅱ）検査

〇川崎病で心エコー

　川崎病の慢性期（1年以上）の経過観察では、冠動脈瘤などの合併症（疑い）がない場合は査定の対象です。急性期２か月以内は複数回、概ね６か月以内は連月検査を認めていますが、頻回の検査が必要であることが分かる適切な病名や注記を付けてください。

〇気管支喘息と肺機能検査

　フローボリュームは、比較的安定した状態でも月１回程度を認めています。２回以上の算定は喘息発作や感染症合併などのエピソードがある場合で、吸入薬の効果判定の際には必要性が分かる傷病名や注記が必要です。肺気量分画検査は、（拘束性病変や肺気腫が対象で）検査結果にも変動が少なく年に1～２回を認めています。

〇経皮的動脈血酸素飽和度測定

　呼吸不全疑いの病名だけでは算定できません。酸素吸入やステロイド注、ネブライザーなどの処置と必要性が分かる傷病名の両方が求められます。顔色だけで呼吸状態の把握が難しい乳幼児期ではけいれんなどで全身状態が悪い場合にも認められます。静脈麻酔中は安全のために算定できます。

〇甲状腺機能低下症

　治療経過観察には、原則としてTSHとFT4を認めています。成人や年長児では、FT3は過剰と考えられます。乳幼児の機能低下症は、発達障害を防ぐために連月の算定も認めますが、その場合もTSHとFT4に限ります。

〇HbA1c

　糖尿病疑いで検査を行うときには、同時に血糖検査の施行が必要です。

〇鉄欠乏性貧血疑い

　フェリチンの単独検査は認められません。血清鉄やTIBCを優先してください。

〇CRP

　炎症性疾患や組織破壊を伴う病態を示す病名が必要です。とくに内分泌や神経系の慢性疾患の外来指導ではご注意ください。

〇連月の多項目血液検査

　連月の多項目検査は査定の対象となりますので、施行時には必要性について詳記してください。連月同じ検査をおこなった場合は施行理由を記載して下さい。

〇学校検尿要精査児

　このことを詳記せずに血尿のみの病名でIgA、C3の算定はできません。さらに腎エコーの算定には形態変化を来す疾病の（疑い）病名が必要です。

保険診療メモ（202010）

算定でしばしば問題となる項目について

〇ヒトメタニューモウイルス抗原検査
　算定には胸写は無くても「肺炎（疑い）」の病名が必要です。

Ⅲ）投薬・注射
〇エピペン
　アナフィラキシーの確定病名が必須です。高価な薬剤ですので添付文書で必ずご確認ください。

〇抗アレルギー剤
　けいれん性疾患があるために上気道炎病名で抗ヒスタミン剤の代わりに抗アレルギー剤を使用されている例がありますが、添付文書にある傷病名が必要です。

〇ビタミン剤
　内服・点滴ともに漫然と投与されているものは査定の対象です。処方時には医学的に必要かつ有効と判断した理由をレセプトに詳記する必要があります。

〇禁忌薬の処方
　添付文書に禁忌と記されている薬剤の投与は認められません。添付文書に禁忌・重要な注意（肝障害や腎障害など）がないかご確認ください。とくに病名の多いレセプトでは見落とされていることがあり注意が必要です。

Ⅳ）処置
〇鼻処置
　鼻疾患の病名が必要で、鼻をかめない３歳未満児が対象です。吸入処置と同時の算定は認められません。

〇喀痰吸引
　一日当たりの点数で、喀痰の凝塊が気道に停滞し喀出困難な患者に対する気道以遠での処置とされています。常時横臥位である1歳未満児や、寝たきりの年長児では外来処置でも認めています。栄養カテーテルなどを使って下咽頭の分泌物を吸引するものは咽頭処置に該当します。

県医師会から発行されている「保険診療の手引きH30年版」の小児科の部分も併せてご覧ください。

（福岡県小児科審査員連絡会）

役員会報告（11月5日：木曜日）

新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

11月5日議事録

　コロナウイルスを疑った場合に関しての検査においてPCR検査センターでは乳幼児の対応ができないため、小倉医療センターに対応してもらっている。今後、西部の方にも小児用PCR検査ができるように調整中である。ただし、保健所に連絡をした上で対応してもらうことが前提であり、保護者が連絡して受診するのはくれぐれも避けてもらいたい。現状では1日2,3人くらいである。

　また、診療検査医療機関が県から認定されていることが報道されてきている。ただし、HPなどにその医療機関の一覧がHPなどに掲載はなされない。このため、一般の人が確認して、受診するということはできないため、保護者からかかりつけに相談していただくことになる。

　診療している医療機関が、実施医療機関でないときは、従来どおりPCR検査センターに申し込んで頂く（小学校の中学年以上で）か、検査を取るのに固定が必要な場合は、保健所に連絡していただき、小児のPCR検査に対応できる医療機関の案内することになる。もしくは、直接診療検査医療機関に紹介するという流れになる。

　一般市民の方から問い合わせがあった場合は、COVID19の検査を希望される地区の近隣の診療検査医療機関の電話等を教えることはある。ただし、公表してよいという意思表示をしている医療機関に関してのみお教えする方針であり、現状では、1/4くらいの施設は電話で案内しても良いと聞いている。

　また、RSウイルス感染症もあまり出ておらず、沖縄と鹿児島くらいである。

インフルエンザの検査に関して：

　京築地域において、行橋急患センターではインフルエンザの迅速検査はやめようという話になってきているが、北九州では馬借のセンターはどうされるか、また連休中はどのようにしていくのか教えていただきたい。

　馬借のセンターも検査はしない方向で話が進んでおり、入院が必要な方に関しては通常の対応か。当然、インフルエンザに対して、イナビルの吸入が新しく出ているが、エアロゾルの問題もあり、当時期には行わない方針である。

　インフルエンザに関しては、COVID19の状況も見ながらであるが、あまり流行する気がしないというのが現実的ではないかと考える。また、子供同士でのCOVID19の伝播もあまり考えにくい状況である。あまりにCOVID19の検査に関してこだわりすぎると、COVID19の偽陽性率のほうが問題になってくる可能性が高い。札幌でもクラスターが主で、のべつ幕なしに検査するのもどうか。

　検査に関しては、フェイスシールドとマスク、手袋さえしていれば、濃厚接触という扱いにはしなくてもいのでしょう。また、院外（駐車場などの屋外）で検査を考えている施設もあると聞いている。

　換気に関しては、4月頃に厚労省が指針を出しているが、6畳に1台位のHEPAフィルターの設置なども書かれていたようであるが、患者の入れ替わりのときに窓、ドアを開けて換気をするのが望ましい。また可能であれば、サーキュレーターを使っての部屋の換気を行っていただければ。（理研の富岳を用いた研究なども発表されているので参考に）保健所としては、窓を開けての換気などができていれば、HEPAフィルターのついた空気清浄機などを使用しないといけないということは考えていない。

Q:子ども家庭局からのMLでの案内の件に関して、医師の判断に基づいてとのことであるが、どのように判断したら良いのか。何を持って否とするのかの基準はどうするのか。また、前もって現場の人間に通達していなかったのもあり、現場が混乱しているのではないか。
A: 教育委員会、保育園から子供の体調が悪いときに、親の判断で休ませてよいのか、医師の判断のほうが良いのかなど、悩ましいところがあった。CCADの会議で検討した結果、親の判断で長期に休ませるというよりは、早い段階で、かかりつけ医に診てほしいという意図で出されている。インフルエンザの診断を受けてこいということを先生や学童の先生などから出ている事案があるので、そういった行為は謹んでほしい（安易に医師に診断を強要しない）ということを教育委員会の方に申し入れをするようにしている。例えば、軽微の風邪の症状でやすむとか、アレルギー性鼻炎など喘息様の咳嗽でも学校に来ないようにというところもあった。そういった症例に対して、常識的な範囲で判断をしていただいて構わない。（これまでの範囲の判断を）

Q:COVID19の流行時期には、なかなかインフルエンザの検査は行いにくいと思う施設が多いと考えられるが、タミフルを投与して経過を見るのが主になるのか？
A:COVID19の流行の状況によっても変わってくると思われるが、インフルエンザの検査は十分な対応をした上で行い、コロナウイルス感染症の疑いがとれない場合に、検査のルートを考えていただければよいか。

Q:インフルエンザ迅速検査陽性の方のコロナウイルス感染症は考えなくてもよいのか？
A:化学療法学会が出している報告では4-40%と報告によってバラバラである。2例成人で、合併があったという報告があった。その他、文献上は数％くらい。とされている。

役員会報告（11月5日：木曜日）

協議事項・報告事項

1）報告

2021年1月17日に第57回北九州地区小児科医会総会
特別講演；『新型コロナウイルス感染症へのこれまでの対応と今後について』をシンポジウム形式で行います。
演者：賀来典之先生(九州大学病院救急救命センター)
有門美穂子先生(北九州市保健福祉局)
神薗淳司先生(北九州市立八幡病院)
来賓は招待しません。
総会後の懇親会は中止します。

2）北九州市小児保健研究会第1回理事会(2020年10月12日)
令和元年度事業報告
○「発達障害児支援のための4・5歳児健診のあり方を探る」
研究者：緒方怜奈・渡辺恭子・山下博徳・安永由紀恵
(国立病院機構小倉医療センター小児科)
○「尿中ニコチン代謝産物質を用いた幼児期の受動喫煙の評価と保護者の禁煙への介入の試み」
研究者；荒木俊介・齋藤玲子(産業医科大学小児科)
河合一明・川崎祐也(産業医科大学産業生態科学研究所職業性腫瘍学)

3）講演会のご案内
「子どもの貧困と健康格差～周りができることは何か～」
令和2年11月20日(金)19時から
ウェルとばた大ホール
講師：北里大学医学部公衆衛生学　講師　可知悠子先生

4）到津の森公園動物サポーター：
今年も会から10万円の寄付を続けることとした

5）令和2年度ペリネイタルビジット講演会
12月21日(月)
北九州市立商工貿易会館２F 多目的ホール
講師：九州大学こどもの心診療部　山下洋先生

委員会報告

1．学術委員会報告：白川嘉継

11月19日　子どものこころとの合同例会　小倉医師会館
「子どものこころの外来での面接法」
広島市　医療法人翠星会 松田病院　松田文雄理事長・院長
12月17日　塩野義製薬　インフルエンザ関連
佐賀大学　青木洋介先生
1月17日　総会
2月18日　小倉医師会館　サノフィ
日本感染症学会理事、鹿児島大学微生物学　西順一郎教授
演題未定
3月18日　小倉医師会館　MSD
長崎大学　森内 浩幸教授
「Heralding and Hesitancy~新たな定期予防接種ロタウイルスワクチンの予告とHPVワクチンへの躊躇い」
※3月は会場での講演会が困難な場合、WEB講演会、ZOOM等何らかの形で、開催します。
4月15日予定　小倉医師会館　ノーベルファーマ株式会社
大阪大学大学院　連合小児発達研究科　谷池雅子教授
（仮）発達と睡眠（脳保護）
5月未定
６月17日予定　小倉医師会館　ミヤリサン製薬
九州大学病院 心療内科　須藤信行教授の
（仮）脳腸相関　腸内細菌が身体と精神に及ぼす影響
11月予定　第一三共
インフルエンザ関連
福岡歯科大学　岡田賢司　教授

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。

発行：北九州小児科医会（元気な子どもたち）　https://www.genki-kitakyu-ped.com/
会員フォーラム：http://forum.kitakyu-ped.jp
事務局：大原小児科医院内　福岡県北九州市戸畑区千防1-11-20
編集：広報委員会